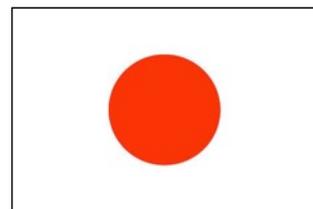




ウガ広報



From Uganda | To Japan | Ono Kenta Menya

みなさんこんにちは！平成27年度1次隊の理科教育でアフリカのウガンダに派遣されています、小野健太です。6月も終わりに近づき、日本では少しずつ暑くなってきている頃でしょうか？今回と次回に渡って自分の配属先であるKisiki collegeについて、学校の様子や活動について紹介したいと思います！

KISIKI COLLEGE NAMUTUMBA特集 PART1

KCNの基本情報

KCNって何？

Kisiki College Namutumba の頭文字を取った略称です。ちなみにこのKCNはクラス分けにも使われており、日本で良く見るA, B, C...の部分がK, C, N, Eと分類されます。最後のEはEducationからきているそうです。

Kisikiってどういう意味？

Kisikiとはスワヒリ語から来ている単語らしく、意味は「stump:切り株、基部、根」らしいです。校庭に大きな切り株があったけれど、別にそれは関係ないらしいです...

全校生徒と教員数

Kisiki college は男女共学6年制の全校生徒約1300人の比較的大規模な中等学校です。そのうち下学年だけでも約1000人おり、自分の中学の3倍以上の人数と考えると、とても多く感じます。日本との違いとしては、**上の学年においては女子の人数が圧倒的に少ない**ことが挙げられます。寮生は約400人で、その中にはウガンダの西側の地域から来ている生徒もみられます。一方教員は約60名おり、そのうち14名が理科教員として働いています。教員も1/3程度が敷地内に住んでおり、家族ごと住んでいる先生もいます。



Kisiki Collegeの敷地は上の写真の赤線に囲まれた部分です。(Google Mapより引用) ティリニーイーロードと書かれている部分が、交通量の多い幹線道路で、道路沿いにある水色部分が入り口の門です。右上の赤い星印が自分の家、左下の黄色い星印は理科室の場所を示しています。理科室の近くにある赤い屋根建物が、普段授業を行っている教室です。**日本と違い教室は1階建の独立した建物として**作られています。そのため、**雨の日は授業前後に濡れながら移動...**なんてこともあります(笑) 左上側と右上側が先生たちが住んでいる建物が点在している感じです。次のページでは、教室と理科室の様子について紹介したいと思います！それにしてもこの敷地、いびつだけどハート型に見えるのは私だけじゃないはず...





教室の様子

教室のサイズ自体は日本と大差ないですが、1クラス70~80人と日本の**2倍ほど**です。授業の中心となる**黒板ですが、日本と違いツルツルテカテカ**していま

す！そのため、真ん中の方の席以外では遠くに位置する部分が光が反射してよく見えません。写真でも、黒板の左部分が見え難いのがわかると思います。黒板がツルツルであることは書き手にとっても大変で、力を入れすぎるとすぐにチョークを折ってしまいます... (こちらのチョークは日本のものより細めで脆いものが多いです)

生徒の机

生徒たちが座っている机は基本的に長机で、この机に3~4人が詰めて座っています。座席指定などはなく、生徒たちが自由に席を選んで座ります。この机、よく見ると座った際に手前側に傾いており、書きやす



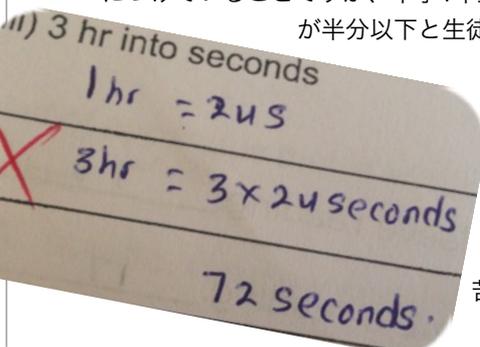
いように工夫されています。工夫されているのは良いのですが、平らでないため、教材などを置いた際にガタガタ動き演示実験の内容もしつかりと選ばないと失敗してしまいます。また、こうして傾いていると、物体の運動の様子などを取り扱う際も工夫が必要になってきます。テストにおいては、生徒同士が密着して座る形になってしまうせいもあり、カンニングが多く、見つかった生徒は体罰を受けています。



ウガンダ人と時間

初回のウガ広報にも書きましたが、ウガンダで使われていた時間の読み方と、私たちが読んでいる時間の読み方とは6時間の差があります。これは本来7時(夜明け)を生活の始まりと考えていたため、それを1時(始まり)として読んだことに由来しているようです。しかし、学校以外では細かい時間指定をされることは少なく、結果的に数時間遅れるということもあります(笑) 時間に追われていない、といえは聞こえはいいですが、学校では時計が読めない、単位が変換できないと進級に響いてきます。1時間が何分なのか、そして1分が何秒なのか。日本では小学校低学年でみんなが身につけていることですが、中学1年生の物理のテストでは正答率が半分以下と生徒の理解が低いことが見て取

れました。こうしたところでもウガンダの初等教育の課題が見られます。自分自身が時計を読むことに苦労したことがないため、読めない生徒への指導に悪戦苦闘しております...



KISIKI COLLEGEの理科室

理科室は3室あり、この理科室の**5S活動**(整理, 整頓, 清掃, 清潔, しつけ)も活動要請に含まれて今す。前任者がいたことから、薬品や器具の分類などは行われていましたが、使用後の片付けの際に間違っ欄に返却されたものなどが見られ、発見し次第位置を直しています。そのため、今後の課題は「しつけ」を中心に行う必要があると考えられます。また、清掃をしていると発見するのが「ラベリングミス」。先生が調製した試薬をペットボトルなどで保存した際の記述忘れ・ミスもありますが、市販の試薬においても記述ミスが見られます。下の写真



に見られる水酸化カルシウムの化学式、 $\text{Ca}(\text{OH})_4$ と書かれています。正しくは **$\text{Ca}(\text{OH})_2$** です。珍しい物質ではなく、むしろ強い塩基性物質としてテストにも頻出する物質。実験

で生徒が「使用した物質」として**間違っ化学式を書いていたこともあり**、こうしたラベリングミスも見つけ次第修正していきたいところです。また、理科室で使われている机も、他の教室と同じような机が多いです。すると必然的に**机は斜めであり、定量実験などにおいて支障が出る**など問題がでるため、今後学校側と相談しながら対策を考えていく必要があります。



今回は自分の学校の教室・理科室に焦点を当てて、その様子をお送りしました。日本の学校と比較してどうでしたでしょうか。「日本でできたこと」に囚われすぎると何もできないため、今あるものでできる最善の授業をすることを目標に自分の活動を展開しています。理科室のラベリングミスのような、早急に対処しなければならない問題には同僚に積極的に呼びかけて改善をしていきたいと思っています。次回も引き続きKISIKI COLLEGE特集としてPCルームや図書室など学校の他の施設についての紹介を行いたいと思っています。

平成27年度1次隊 理科教育 小野健太